

廣讚寺

ジャーナル



第213号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

来年の生活は

昨今の日本の状況を見ると、来年はどうなるかを考えると不安を覚えます。物価の高騰は加速度的に進行しており、来年に入っても物価が下がる可能性は極めて低いでしょう。



さらに温

暖化の影響

で農作物が

不作となれ

ば、食料価

格は一層上昇します。今

より円安が進めば輸入品

の価格も上がります。人

材不足による人件費の高

騰も物価上昇に拍車をか

けます。しかし収入、実質賃金は上がらなくなれば

生活はより苦しくなっていくます。こうした要因が重

なれば、来年だけでなく、10年後の日本経済の姿を想

像するのも難しく、生活が豊かになる未来は描きにく

いのが現状です。

「貧すれば鈍す」という言葉があります。この貧し

さを打開しようとするあまり、国民の意識が誤った方

向、戦争の方向に進まないことを切に願います。



報恩講

市野 智行

11月は真宗本廟（本山）はじめ、各地で報恩講が厳修されます。ご存じの通り、報恩講とは宗祖親鸞聖人のご命日の法要です。

では、なぜ報恩講を勤めるのでしょうか。

親鸞のひ孫にあたる覚如上人は報恩講とは「実語を耳の底に貽（のこ）す」ことが大切であると仰っています。「実語」とは、私の事実を言い当てる言葉です。

仏教はしばしば「鏡」に喩えられますが、その鏡に映る私とは、一体どんな私であるのか。そのことを確か

めていく場

が報恩講な

のです。そ

して、その

事実を言い

当てる言葉

を耳の底に

「貽す」のだ

と言います。

「のこす」と聞くと、多くの方が「残」という字を想

起するのではないかと思います。私もそうです。「残」



2025年 廣讚寺報恩講

とは「あまり」や「のこり」を意味し、差し引きからくる言葉です。一方で「貽」とは「伝える」という意味を持ちます。つまり、耳の底に貽すのは、私に伝わってきたものを聞き、次の世代へ伝えるために「貽す」のです。その相続が浄土真宗の歴史で



報恩講お斎

あるとも言えるのではないのでしょうか。

さて、私たちはこれまで報恩講をお勤めする中で、何を聞いてきたのでしょうか。私の耳に貽っているものは何でしょうか。ぜひ、語り合ってみてください。

お寺でも、ご家庭でも、どこでも構いません。私たち一人ひとりが出遇ってきたお念仏の教えを、ぜひ語ってください。

ちなみに私の耳の底に貽っているのは「この白道を渡るのは行者ではありません。阿弥陀仏が渡るのです」という言葉です。

令和八年(2026年)年忌表

年回	年回にあたる没年
一周忌	令和7年(2025年)
三回忌	令和6年(2024年)
七回忌	令和2年(2020年)
十三回忌	平成26年(2014年)
十七回忌	平成22年(2010年)
二十三回忌	平成16年(2004年)
二十七回忌	平成12年(2000年)
三十三回忌	平成6年(1994年)
三十七回忌	平成2年(1990年)
四十三回忌	昭和59年(1984年)
四十七回忌	昭和55年(1980年)
五十回忌	昭和52年(1977年)

行事予定

十一月二十八日(金) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め
同朋会例会

十二月二十八日(日) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め
同朋会例会

十二月三十一日(水) 三時 歳末勤行

(除夜の鐘はありませんので元日の朝の初鐘にお越しください。)

一月一日(祝) 十時 修正会(しゅしょうえ)
十時半頃 初鐘

